

## 天然の海岸線

九十九島の海岸線は延べ約 353 キロメートルにおよび、そのうち 81.5%が開発されていない自然海岸です。この数字は全国平均をはるかに上回っています。この慎重な保護により、海岸線の動植物相は賑わっています。

- 展示写真の詳しい情報を見るには QR コードを使ってください。無料 WiFi が利用できます。

九十九島は国内屈指の景勝に富む沿岸地域を誇ります。九十九島と九州本島の自然海岸は、数々の希少種・絶滅危惧種を含む幅広い植物や野生生物を維持する重要な生態系でもあります。九十九島の砂浜や潟には、しばしば生きた化石と呼ばれるカブトガニ (*Tachypleus tridentatus*) などの生物が生息しています。アジアの多くの地域では個体数が激減しているものの、九十九島の海岸線沿いには非常に多数のカブトガニがやってきて産卵します。

泥の多い場所では、シオヤガイ (*Anomalocardia squamosai*) という小さな白い二枚貝と同様、日本の主要四島ではほぼ絶滅している、肺呼吸をするドロアワモチ (*Onchidium hongkongensis*) を見かけるかもしれません。ハクセンシオマネキ (*Uca lactea*) やコメツキガニ (*Ilyoplax pusilla*) のような希少な甲殻類も海岸線沿いを駆けまわります。

九十九島は、コウボウムギ (*Carex kobomugi*) やコウボウシバ (*Carex pumila*) など、砂質の土壤に生育して砂丘を安定させる希少種・絶滅危惧種の植物にとっても重要な環境です。

例に挙げた動植物の他にも、手付かずの海岸に沿って何百種もの魚、鳥、哺乳動物、軟体動物、花、植物が生息しています。これらの生物の存在により、九十九島の海岸線には自然を愛する人々にとってワクワクするスポットがいくつもあります。

### <写真>

九十九島の浜の大部分は天然で、人工物がありません。

手つかずの海岸線は、数多くの動植物種を養う重要な生態系です。

天然の浜には、塩性湿地に生育するハマツナ (*Suaeda maritima*) やハマサジ (*Limonium tetragonum*) などの植物があちらこちらに生えています。

埋立・護岸工事は、日本中の塩生湿地を脅かしています。

九十九島地域には、砂浜、岩礁、干潟など、変化に富む天然の浜があります。